

【様式】

令和8年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立四日市商業高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		校訓である「至誠」の精神のもと、商業教育・普通教育を通じて知・徳・体の健全な成長を促し、地域と連携しながら、地域に必要とされる人材を輩出できる学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○礼儀やマナーをしっかりと身につけた上で、生きて働く知識・技能を備えるとともに、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を持ち社会に貢献できる人材 ○様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題解決ができる能力を持つとともに、ビジネスを理解し、ビジネスを創れる人材
	ありたい教職員の姿	○目指す学校像の実現に向け、教職員が自らの専門性を高めるとともに、互いに協力し合い組織一丸となって教育活動に取り組む職員集団 ○変化を恐れず、前向きに挑戦する意欲を有する教職員 ○優れた人権感覚と社会人としての良識に富み、生徒や保護者との間に信頼関係が築ける教職員 ○コンプライアンスを遵守し、信頼ある教育活動を展開する教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	(生徒)地元企業への就職を希望する生徒と上級学校への進学を希望する生徒の割合はほぼ同数程度である。就職では事務職に就くことを望む生徒が多い。安定した学習環境を望み、各種検定や資格取得、充実した部活動に期待する生徒が多い。 (保護者)学力の向上、挨拶やマナー等の社会性の向上を期待するとともに、希望進路の実現には強い関心がある。また、安心・安全の観点から学校からの情報発信の充実を望む声が多い。 (企業)商業関係のスキルはもとより、挨拶や人間関係構築などコミュニケーション能力を備えた人材の提供を望む声が多い。 (地域)地域社会の行事などへの生徒の参加、参画による連携や交流を通じて地域活性化への寄与が期待される。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	(家庭)学校からの適切な連絡や情報提供、相談体制の充実 (中学校)卒業生による説明会への参加等を通じて実際の高校生活にかかわる情報の提供 (企業)就職後のアフターフォローと生徒情報の提供 (大学等)高校からの継続した連携、大学の紹介等の機会の設定 (地域社会)開かれた学校づくり、地域との連携や協働活動、情報共有機会の増加	(家庭)学校行事やPTA活動への積極的参加。学校教育への理解と支援及び確実な連絡体制 (中学校)適切な進路指導、キャリア教育の実践。生徒についての緊密な情報交換 (企業)積極的な求人、インターンシップ等への理解・協力 (大学等)卒業生の受け入れ、講師派遣や高校生への直接指導など高大連携、キャリア教育・授業改善への取組 (地域社会)通学等の安全確保や学校への様々な協力、支援

(3)前年度の学校関係者評価など		○人権学習の発展は重要であり、一時的な学習にとどまらず、今年度の良い取組を次年度につなげていってほしい。 ○交通安全指導や交通マナー指導については社会的にも罰則が強化されることもあり、4月当初に実施することが望ましい。また、家庭との連携も大切である。 ○探究的な学習については年度を重ねるごとに充実したものになっている。これからもさらに発展させていってほしい。 ○生成 AI の活用が教育現場での課題である。今後の社会において有用なものであることは間違いなく、適切に活用できるスキルやリテラシーを習得させる必要がある。 ○防災教育を強化し、安全・安心に過ごせることを生徒や地域に伝わる学校活動を実践することも大切である。 ○学校の魅力発信については、公式Instagramや公式TikTokを活用して努力している。さらに中学生等が興味・関心を持てる内容に工夫することが必要である。
(4)現状と課題	教育活動	○すでに実施している観点別評価に向けた学習内容の改善・充実が必要。基礎学力の底上げはもとより、企業や地域と連携した取り組みや商業の授業内容や活動内容の質の向上が求められる。 ○「人間教育(人づくり)」については、基本的生活習慣を確立した上で、本校の良き伝統を大切にしながら、質の高いビジネスマナーの習得を本校の武器にしていける。 ○部活動については、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行うとともに、学業との両立を図りながら強化に取り組む。
	学校運営等	○各教科で学習内容の検討や授業力向上の組織的な取り組みが必要。カリキュラム・マネジメントを行う上で、カリキュラム委員会での積極的な議論が必要。 ○地域との連携や課題研究などの効果的な取組をさらに進めるとともに、ウェブサイトやメディアの活用等によるPR活動を積極的に取り組み、本校の魅力発信を一層進める必要がある。 ○職員の仕事の偏りや時間外労働の縮減に取り組むとともに、風通しの良い職場環境の構築を行い、情報共有・コミュニケーションの機会を増やす。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	教育活動	○校訓である「至誠」の示す人間教育を大切にしながら、変化の激しい社会において、変化をしなやかに前向きに受け止めて、失敗をおそれず挑戦する心や生涯をとおして学びに向かう姿勢、社会の一員としての自覚と責任を持ち、他者との協働を大切にしながら、豊かな未来を創っていく人材を育成する。 ○学校の諸活動を通して、生徒の自主性・主体性を向上させる取組を進めていくとともに生徒一人ひとりの自己肯定感を涵養する教育を推進する。 ○教員が主体的にカリキュラム・マネジメントに基づき、授業改善、教育改善を行う。 ○「思考力」「判断力」「表現力」「課題発見・解決力」「専門性」「協働性」といった「今後の社会で生き抜く力」「社会に貢献する力」を授業、特別活動、部活動など学校教育全体を通して育てていく。 ○校内に留まることなく「地域の大人」「他校の生徒」など「他者」との対話・交流を通じて積極的、主体的な人間性や課題発見・解決力を育む探究活動に取り組む。 ○進路実現に向けて、充実した学校生活を過ごせるよう、学業と部活動等とのバランスを考えて取り組む。 ○GIGAスクール構想の下、タブレット端末を有効活用して多様な学びを進め、環境の変化や課題に的確に対応できる生徒を育成する。
	学校運営等	○学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図る。 ○進学指導において、総合型選抜など多様な進学方法に対応し、個に応じた進学体

	制づくりを推進する。 ○「就職も進学も強い泗商」「多様な進路」「地域貢献できる学校」といった泗商の魅力を中学生とその保護者や地域に発信し、今以上に「生徒が学びたくなる学校」「保護者が子供に行かせたい学校」「地域が応援したくなる学校」となるよう取り組む。 ○泗商独自の風紀、週番制度の活用などを通して、生徒の自主性・主体性を向上させることにより生徒の学校運営への参画を図る。
--	---

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿	○商業の学習に興味・関心をもち、将来、ビジネスの分野で地域に貢献することを目指して意欲的に取り組める生徒
【アドミッション・ポリシー】	○スポーツ・文化活動または生徒会活動等で優れた資質を有し、入学後もその活動を継続的・意欲的に取り組む意志のある生徒

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	(1)教科会の活用、授業参観週間・公開授業の実施等により、授業力の向上を目指す。 【活動指標】教科会の活用、授業参観・公開授業の実施・生徒アンケート実施 【成果指標】公開授業延5日以上、生徒アンケートにて授業における3つの観点の習熟度80%以上		◎
キャリア教育と探究活動の充実	(1)商業科独自に検討委員会を設置し、探究活動・課題研究の学習内容を検討する。 【活動指標】商業科独自の検討委員会を年3回開催し、外部機関と連携した、1年次2月、2年次12月に実施予定の探究活動および3年次の課題研究の内容を検討し、教科会へ具体的な実施案を提示し、科全体で一体となった質の高い探究的学びを展開することを目指す。 【成果指標】事後アンケートにおいて ・「探究的な学びを通じて課題解決能力や主体性が高まった」⇒80%以上 ・「外部連携による探究活動・課題研究に対する生徒の満足度」⇒80%以上		

進路指導	(1)生徒一人ひとりの進路実現に向けて具体的な指導・助言を行う。 (2)多様な進学方法に対応し、個に応じた進学体制づくりを進めるため、学習到達指標(GTZ)を活用した指導を行い、基礎学力の向上や商業高校の特性を活かした進路実現に繋げる。 (3)進路通信を発行し、適宜情報提供を行い、生徒の進路意識の醸成を図る。ICT 機器及び Classroom の活用により主体的な学びから進路理解を深める。 【活動指標】 ・基礎力診断テスト及び実力診断テストの実施。 ・講演会や研修を通じ、学習到達指標の有効活用について理解を深める。 ・国語科との連携による文章の書き方指導(2～3 年生)。 ・進学希望者へ小論文指導の実施。 ・進路講話の実施(年間で 3 年生6回・2 年生 3 回・1 年生 2 回)。外部講師による生徒向けの講演会及び教員向け研修会を 1 回以上実施。 ・進路通信を年 8 回以上発行。 【成果指標】 各学年の進路指導計画に基づき、進路実現 100%を目指す。 生徒アンケートにて進路指導における満足度 80%以上。		
生徒指導 生徒会活動	(1)社会で活躍し、地域に貢献できる人づくりを行う。そのため、礼儀やマナーをしっかりとわきまえ、規律を守る、高い規範意識を持つことに加え、他者を尊重し、関りを大切にする生徒の育成を目指す。 【活動指標】 ・風紀週番制度を社会に出るためのトレーニングととらえ、活動に丁寧に取り組み、生徒一人一人の責任感、主体性、協調性を養う。 ・全教職員による、あいさつの励行、身だしなみの指導 【成果指標】 ・風紀週番の当番忘れによるやり直し率 10%以下 ・学校生活アンケートで基本的生活習慣が身についた 90%以上、挨拶など礼儀が身についた 95%以上 (2)交通安全指導の徹底を図る。 【活動指標】 ・校外において登下校指導(年間 15 日以上、各 4 ヶ所)を通じ登下校時のマナー向上を図り、交通安全に対する意識を高める。		

	【成果指標】 ・登下校指導による指導生徒数10人以下および苦情件数前年度比半減 ・自転車事故件数 半減(5 件以内) (3) 部活動・生徒会活動の充実と部活動を通じた人づくりを行う。 【活動指標】部活動・生徒会活動を通じて生徒の主体性の向上を図る。 【成果指標】東海大会出場 15 クラブ以上、全国大会出場 10 クラブ以上、学校生活アンケートで「部活動への取り組みが熱心になった」割合が 80%以上。生徒が主体的に活動する生徒会活動。		
改善課題			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	(1)計画的な教員研修の実施 【活動指標】職員対象の人権研修を年間 2 回以上、SC による教育相談研修会年間 1 回以上、保健部によるエピペン講習会年間 1 回以上、救急救命処置・AED 使い方の研修会年間 1 回以上実施		
魅力アップと情報提供による信頼の構築	(1)行事や課題研究で実施している商業高校ならではの取組について、広く一般の人にも知ってもらえるよう、マスメディアへのプレスリリースを積極的に行う。 (2)情報発信の充実を図るため、ホームページを逐次更新し充実させるとともに、昨年度立ち上げた公式 Instagram や TikTok などの媒体を活用し、高校生活の様子や生徒の声をタイムリーに発信していく。 (3)学校生活を紹介する PR 動画の作成や体験授業の実施により、高校生活入門講座の充実を図る。 (4)学校説明会や見学会、出前授業を行うことにより、商業高校の学習内容や取り組み内容を、中学生やその保護者に伝えていく。 (5)コミュニケーションツールとしての Google Classroom の活用を一層推進する。		◎

	【活動指標】 ポスターは年1回、チラシは年2回発行する。授業に関する内容や部活動の成績などをホームページに逐次アップするなど学習活動を中心とした学校案内の充実を図る。 課題研究の生徒が中心となり作成したInstagramやTikTokを公開し、さらなる学校案内の充実を図る。 【成果指標】 ・新聞等のメディア掲載件数 年20件以上 ・公式Instagramのフォロワー数 1,000件以上 ・公式TikTokのフォロワー数 2,000件以上		
人権教育・特別支援教育の充実	(1) 人権教育ならびに、命を大切にする教育を行う。 【活動指標】 人権教育推進委員会を年4回以上開催するとともに、各学年において各学期に1回以上、人権に関するホームルーム活動や講演会等を実施する。 (2) 生徒一人ひとりの状況にあわせ職員間の連携を密にし、情報共有を図り、生徒にとって安心安全な環境を整える。特別支援教育委員会や教科担当者会議などを通じて、生徒の状況把握・情報交換・情報共有に努め、合理的な配慮を行う。 【活動指標】保健通信を月1回(年12回)発行。保健室前のデジタルサイネージでの情報提供を随時更新。特別支援教育委員会(教育相談情報共有兼ねる)を年間5回以上実施する。		
働きやすい職場環境づくり	(1) 時間外在校等時間の縮減に取り組む。 【活動指標】 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 90%以上 ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100% ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 100% 【成果指標】 ・時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数 0人 ・時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 0人 ・1人当たりの月平均時間外在校等時間 30時間以下 ・1人当たりの年間休暇取得日数 15日以上 (2) 不祥事の根絶に向けたコンプライアンス研修を学期に1回以上開催するとともに、学校信頼向上委員会を定期的開催するなど、職員のコミュニケーションの機会を増やし、働きやすい環境を整える。		

改善課題

6 学校関係者評価

明らかにった 改善課題と次への 取組方向	
----------------------------	--

7 次年度に向けた改善策

教育活動について の改善策	
学校運営について の改善策	